

第83期 中間報告書

2009年4月1日 → 2009年9月30日



三菱ガス化学株式会社

MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC.

株主の皆様には日頃よりご厚情を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに第83期上半期(2009年4月1日から2009年9月30日まで)の中間報告書をお届けします。



代表取締役社長
酒井 和夫

当上半期のわが国経済は、昨年度後半の急激な悪化を受けて日本を含む各国が講じた景気刺激策の効果などにより、一部で回復の兆しが見られましたが、全般的には厳しい状況が続きました。

当社グループを取り巻く経営環境は、昨年度後半の商品市況の急落や需要の大幅な減少に対し、半導体・液晶向け製品の一部には顕著な需要の回復が見られたものの、総じて需要は低調に推移しました。

このような事業環境の下、当社グループは当期より新たに中期経営計画「MGC Will 2011」をスタートさせるとともに、収益状況を改善するため、販売数量の拡大やコスト削減などに向けて努めてまいりました。

しかしながら、当社グループの当上半期の業績は、売上高1,807億円(前年同期比884億円減、32.8%減)、営業損失11億円(前年同期比107億円悪化)、経常損失25億円(前年同期比225億円悪化)、中間純損失24億円(前年同期比169億円悪化)となりました。

また、当期の通期業績が2009年5月8日発表の予想を大幅に下回る見込みとなったことから、まことに遺憾ながら、年間配当金を当初予想の12円(中間配当6円、期末配当6円)から8円(中間配当4円、期末配当4円)に修正いたしました。

株主の皆様には引き続きご支援、ご鞭撻を賜りたく、何卒よろしくお願い申し上げます。

2009年12月

中期経営計画「MGC Will 2011」

【グループビジョン】

MGCグループは全ての事業活動においてCSRの実践を徹底し、グローバルな舞台で、「独自技術に立脚した特色と存在感のある優良化学会社」として、持続的成長を目指します。

【基本方針】

1. コア事業の一層の強化・拡充
2. 新規製品の創出と育成の加速
3. 持続的成長を支える〈質〉の向上

【2011年度 目標連結財務指標】

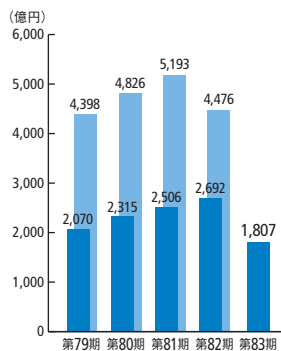
売上高	5,500 億円
営業利益	400 億円
経常利益	500 億円
ROA (総資産経常利益率)	9.0 %
D/Eレシオ	0.6 以下

連結財務ハイライト

(単位: 百万円)

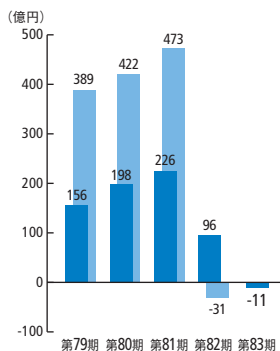
	当中間期 2009年4月1日～ 9月30日	前中間期 2008年4月1日～ 9月30日	前期 2008年4月1日～ 2009年3月31日
売上高	180,770	269,204	447,647
営業損益	△1,101	9,620	△3,103
経常損益	△2,592	19,951	6,975
中間(当期)純損益	△2,433	14,565	7,014

■ 売上高

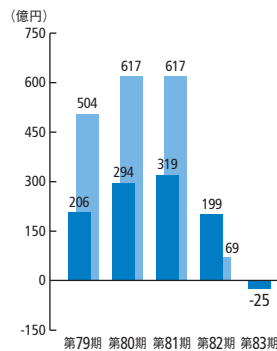


■ 中間 ■ 通期

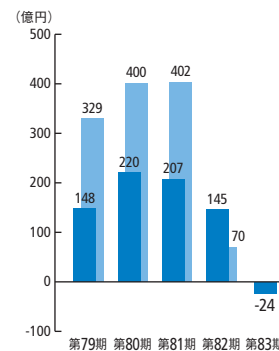
■ 営業損益



■ 経常損益



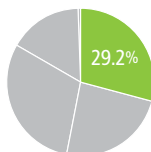
■ 当期純損益



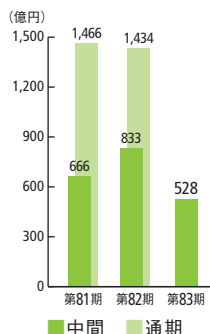
事業別営業概況

(自2009年4月1日 至2009年9月30日)

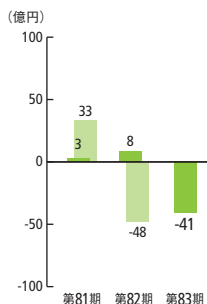
■ 売上高構成比



■ 売上高



■ 営業利益



天然ガス系化学品事業

メタノールは、来年の新規プラント稼働に備えたプレマーケティングの推進により販売数量は増加したものの、昨年末に急落した市況は当上半期も低水準で推移した結果、大幅な減収となりました。海外メタノール生産会社の持分法利益も大幅な減益となりました。

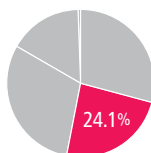
メタノール・アンモニア系化学品は、国内外の需要低迷による販売数量の減少のほか、アンモニア装置の長期停止の影響もあり、前年同期を大きく下回る結果となりました。

酵素・補酵素類は、コエンザイムQ10の国内販売数量の増加により、前年同期をやや上回りました。

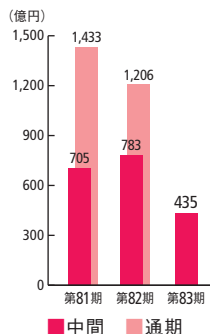
天然ガスその他のエネルギー販売は、原油の販売価格が、エネルギー価格の高騰を反映していた前年同期の価格を大きく下回ったことから、大幅な減益となりました。

以上の結果、売上高は528億円(前年同期比 304億円減、36.5%減)、営業損失は41億円(前年同期比 50億円悪化)となりました。

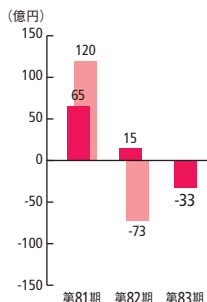
■ 売上高構成比



■ 売上高



■ 営業利益



芳香族化学品事業

特殊芳香族化学品は、メタキシレンジアミン、MXナイロン、芳香族アルデヒドなどにおいて、需要が低迷したことに加え、ユーザーの在庫調整が予想以上に長引いた影響もあり、販売数量が大きく減少したことから、大幅な減収減益となりました。

高純度イソフタル酸は、需要低迷による販売数量の減少に加え、前期から続く厳しい競争によるマージンの悪化などから、減収減益となりました。

以上の結果、売上高は435億円(前年同期比 348億円減、44.5%減)、営業損失は33億円(前年同期比 48億円悪化)となりました。

機能化学品事業

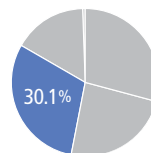
工業用無機薬品類は、紙パルプ向けをはじめとする需要の低迷により過酸化水素の販売数量が減少したことなどから減収となりましたが、販売価格の是正効果もあり損益は前年同期並みとなりました。

電子工業用薬品類は、半導体・液晶向けとともに販売数量が減少し、海外子会社を含め、減収減益となりました。

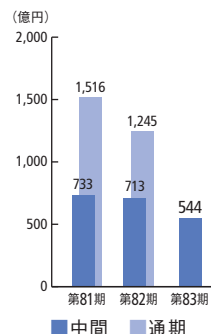
エンジニアリングプラスチックスは、ポリカーボネート、ポリアセタールは、自動車向けをはじめとする需要の不振で減収減益となりました。一方、ポリカーボネートシート・フィルムはフラットパネルディスプレイ向けフィルムの需要が好調で大幅な増益となりました。

以上の結果、売上高は544億円（前年同期比 168億円減、23.6% 減）、営業利益は33億円（前年同期比 2億円増、7.5% 増）となりました。

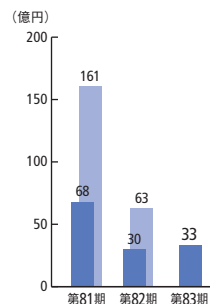
■ 売上高構成比



■ 売上高



■ 営業利益



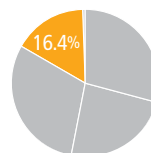
特殊機能材事業

プリント配線板用材料は、当期に入り半導体パッケージ向け需要の回復が見られましたが、前年同期をやや下回る水準にとどまった結果、減収減益となりました。プリント配線板用小径孔空け補助材料LEシートも需要低迷により減収減益となりました。

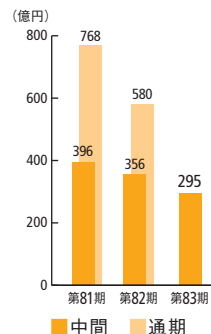
「エージェレス®」などの脱酸素剤は、主力の国内食品分野の競争が激しく、前年同期をやや下回る収益となりました。

以上の結果、売上高は295億円（前年同期比 60億円減、17.1% 減）、営業利益は27億円（前年同期比 14億円減、34.3% 減）となりました。

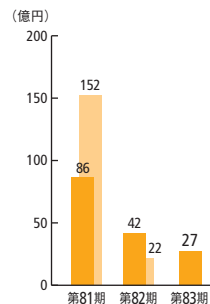
■ 売上高構成比



■ 売上高



■ 営業利益



その他事業

その他事業の売上高は3億円、営業利益は2億円となりました。

当社では、2009年4月からスタートした中期経営計画「MGC Will 2011」において、「コア事業の一層の強化・拡充」を基本方針の一つに掲げ、前中期経営計画に続き、積極的な投融資を進めています。現在、複数のプロジェクトが国内外において進行中ですが、ここでは、中国でのプロジェクトを紹介いたします。



苏州菱苏过氧化物有限公司（過酸化水素・化学研磨液）



過酸化水素の新プラント

菱優工程塑料(上海)有限公司（ポリカーボネート）



上海化学工業区管理エリア。奥に見えるのは杭州湾

過酸化水素・化学研磨液

江蘇省張家港市にある、過酸化水素などの製造販売会社「苏州菱苏过氧化物有限公司」では、2009年8月に年産3万トンのプラントが完成、11月より本格商業運転を開始しました。同社ではさらに、過酸化水素の誘導品である化学研磨液の生産準備を進めています。

張家港市は上海市の北西約100km、長江南岸に位置する新しい工業都市ですが、港町としての歴史は古く、唐代の高僧鑑真が6度目にして渡日に成功した際の出発地でもあります。

製品メモ

過酸化水素は、環境負荷が小さく(最終的に水と酸素に分解する)、漂白、殺菌、酸化、金属の研磨など、多くの機能を持つ。代表的な用途は紙パルプの漂白、化学品の合成原料など。

会社メモ

社名	苏州菱苏过氧化物有限公司
所在地	江蘇省張家港市樂余鎮東沙加工区
株主名 (出資比率)	三菱ガス化学(60%)、 江蘇蘇化集団(40%)
主な事業	過酸化水素・化学研磨液の製造販売

ポリカーボネート

中国最大の工業都市・上海では、ポリカーボネートの生産、コンパウンド、技術サービスの総合拠点「菱優工程塑料(上海)有限公司」を、2009年7月に設立しました。年内にも年産8万トンの樹脂製造プラントをはじめとする各設備の建設に着工、2012年4月の生産開始を目指します。

製品メモ

ポリカーボネートは透明で強靱な工業用樹脂。電気・電子・OA機器や自動車の部材、建材、雑貨などに広く利用されている。

会社メモ

社名	菱優工程塑料(上海)有限公司
所在地	上海市上海化学工業区
株主名 (出資比率)	三菱ガス化学(80%)、 三菱エンジニアリングプラスチック(20%)
主な事業	界面法ポリカーボネート樹脂・ コンパウンドの製造(2012年4月～)、 技術サービス(2011年8月～)

決算概要

連結貸借対照表(要約)

(単位:百万円)

科 目	当中間期 (2009年9月30日現在)	前期 (2009年3月31日現在)
(資産の部)		
流動資産	212,090	215,298
現金及び預金	20,648	23,209
受取手形及び売掛金	93,075	74,549
有価証券	21,944	30,845
たな卸資産	62,552	65,337
その他	13,870	21,356
固定資産	324,499	315,293
有形固定資産	166,705	166,647
建物及び構築物	46,761	46,662
機械装置及び運搬具	71,796	71,495
その他	48,148	48,489
無形固定資産	3,379	2,881
投資その他の資産	154,413	145,765
投資有価証券	129,614	121,540
その他	24,799	24,225
① 資産合計	536,590	530,592

① 資産合計

流動資産が減少したものの、投資有価証券が増加したことから前期末に比べ増加しました。

(単位:百万円)

科 目	当中間期 (2009年9月30日現在)	前期 (2009年3月31日現在)
(負債の部)		
流動負債	164,867	161,088
支払手形及び買掛金	50,392	40,301
短期借入金	82,511	86,974
その他	31,963	33,812
固定負債	96,460	97,421
社債	20,000	20,000
長期借入金	67,510	67,604
その他	8,949	9,816
② 負債合計	261,327	258,509
(純資産の部)		
株主資本	285,602	291,658
資本金	41,970	41,970
資本剰余金	35,590	35,589
利益剰余金	215,941	221,990
自己株式	△ 7,899	△ 7,891
評価・換算差額等	△ 18,696	△ 26,797
その他有価証券評価差額金	960	△ 3,330
繰延ヘッジ損益	29	29
土地再評価差額金	192	192
為替換算調整勘定	△ 19,879	△ 23,688
少数株主持分	8,357	7,222
③ 純資産合計	275,262	272,083
負債・純資産合計	536,590	530,592

② 負債合計

買掛債務の増加などにより前期末に比べ増加しました。

③ 純資産合計

その他有価証券評価差額金や為替換算調整勘定の改善により前期末に比べ増加しました。

連結損益計算書(要約)

(単位:百万円)

科 目	当中間期 (2009年4月1日～ 9月30日)	前中間期 (2008年4月1日～ 9月30日)
④ 売上高	180,770	269,204
売上原価	156,272	230,943
販売費及び一般管理費	25,600	28,640
⑤ 営業損益	△ 1,101	9,620
営業外収益	4,195	13,237
営業外費用	5,686	2,905
⑥ 経常損益	△ 2,592	19,951
特別利益	183	—
特別損失	1,169	1,103
税金等調整前中間純損益	△ 3,579	18,848
法人税等	△ 1,352	3,735
少数株主利益	207	548
中間純損益	△ 2,433	14,565

④ 売上高

多くの分野で販売数量が減少したことに加え、原材料価格の下落に伴う汎用品を中心とした販売価格の下落により、大幅に減少しました。

⑤ 営業損益

販売数量の大幅な減少やマージンの悪化などにより、大幅に悪化しました。

⑥ 経常損益

海外メタノール生産会社の持分法利益が、大幅に減少したことなどにより、大きく悪化しました。

連結キャッシュ・フロー計算書(要約)

(単位:百万円)

科 目	当中間期 (2009年4月1日～ 9月30日)	前中間期 (2008年4月1日～ 9月30日)
税金等調整前中間純損益	△ 3,579	18,848
減価償却費	13,689	13,486
持分法による投資利益	△ 2,475	△ 10,828
持分法適用会社からの 配当金の受取額	4,326	6,776
運転資金等	△ 5,011	580
法人税等の支払額または還付額	5,115	△ 5,806
営業活動によるキャッシュ・フロー	12,066	23,056
設備投資資金等	△ 14,972	△ 19,889
投融資資金等	△ 702	△ 1,116
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 15,674	△ 21,006
借入金・社債増減額	△ 4,971	2,276
配当金支払額	△ 3,834	△ 4,009
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 8,805	△ 1,732
現金及び現金同等物に係わる換算差額	32	△ 595
現金及び現金同等物の減少額	△ 12,381	△ 277
現金及び現金同等物期首残高	53,065	37,235
連結の範囲の変更に伴う現金及び 現金同等物の増加額	814	117
現金及び現金同等物の中間期末残高	41,498	37,075

その他

当第2四半期より、菱優工程塑料(上海)有限公司を連結の範囲に含めています。

株式の概要

(2009年9月30日現在)

発行可能株式総数 984,856,000 株

発行済株式の総数 483,478,398 株

株主数 33,461 名

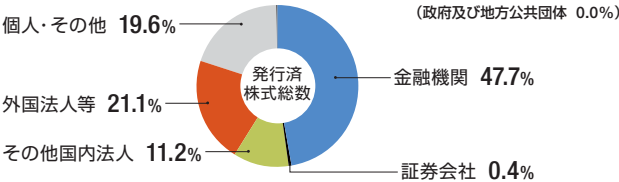
上場取引所 東京証券取引所第一部(証券コード: 4182)
(2009年6月8日をもって、大阪・名古屋両証券取引所への上場を廃止いたしました。)

大株主

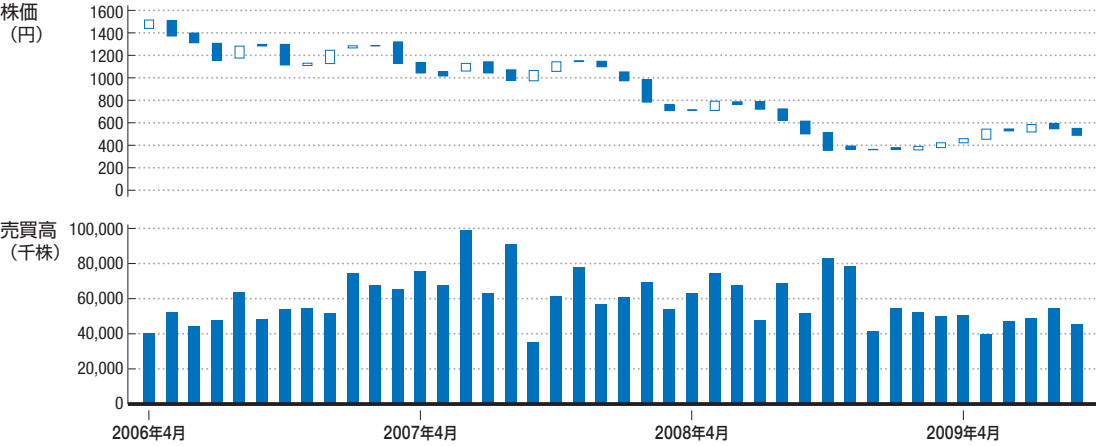
株主名	持株数(千株)	出資比率
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	32,350	7.2%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	25,283	5.6%
日本生命保険相互会社	21,452	4.7%
明治安田生命保険相互会社	16,795	3.7%
株式会社三菱東京UFJ銀行	16,403	3.6%
三菱UFJ信託銀行株式会社	11,686	2.6%
農林中央金庫	10,053	2.2%
旭硝子株式会社	9,671	2.1%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	9,614	2.1%
東京海上日動火災保険株式会社	9,008	2.0%

(注) 1. 当社は自己株式を31,433千株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
2. 出資比率は自己株式を控除して計算しております。

所有者別分布状況



株価等の状況



会社概要

(2009年9月30日現在)

社名	三菱ガス化学株式会社 (登記商号:三菱瓦斯化学株式会社) MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC.			資本金	419億7千万円			
従業員数	2,305名(連結:4,926名)			事業所	営業所: 大阪支店、名古屋支店 研究所: 東京テクノパーク(東京研究所、MGC分析センター)、新潟研究所、平塚研究所 工場: 新潟工場、水島工場、四日市工場、山北工場、鹿島工場			
本社所在地	〒100-8324 東京都千代田区丸の内二丁目5番2号 三菱ビル							
創業	1918(大正7)年1月15日							
設立	1951(昭和26)年4月21日							
役員	代表取締役会長	小高英紀	取締役常務執行役員	畑 仁	執行役員	高橋秀之	理事	辻 欣哉
	代表取締役社長	酒井和夫	取締役常務執行役員	大矢邦夫	執行役員	杉田克彦		
	代表取締役専務執行役員	川上邦彰	取締役常務執行役員	倉井敏磨	執行役員	加藤富雄	監査役 [常勤・社外]	野口一英
	代表取締役専務執行役員	山崎慶重			執行役員	渡邊哲志	監査役 [常勤]	川木隆雄
	取締役常務執行役員	塚本耕三	執行役員	水谷 誠	執行役員	澤井 司	監査役 [常勤]	上松正次
	取締役常務執行役員	上石邦明	執行役員	小西規夫	執行役員	山根祥弘	監査役 [非常勤・社外]	田口 弥
	取締役常務執行役員	宮内 雄	執行役員	織作正美	執行役員	小野重信	監査役 [非常勤・社外]	二瓶好正
			執行役員	酒井幸男	執行役員	河 邦雄		

連結子会社(35社)

木江ターミナル(株)
(株)東京商会
日本サーキット工業(株)
日本パイオニクス(株)
(株)日本ファインケム
菱江化学(株)
菱和エンタープライズ(株)
MITSUBISHI GAS CHEMICAL SINGAPORE PTE. LTD.
エレクトロテクノ(株)
海洋運輸(株)
エーアンドシー(株)
東洋化学(株)

MGC フィルシート(株)
永和化成工業(株)
三永純化(株)
MGC PURE CHEMICALS AMERICA, INC.
THAI POLYACETAL CO., LTD.
MITSUBISHI GAS CHEMICAL AMERICA, INC.
菱陽商事(株)
P.T.PEROKSIDA INDONESIA PRATAMA
共同過酸化水素(株)
国華産業(株)
フドー(株)
(株)フドーテクノ

米沢ダイヤエレクトロニクス(株)
エイ・ジ・インタナショナル・ケミカル(株)
MGC ADVANCED POLYMERS, INC.
MGC ファイナンス(株)
太陽産業(株)
ポリオールアジア(株)
日本パイオ(株)
MGC PURE CHEMICALS SINGAPORE PTE. LTD.
巨菱精密化学股份有限公司
菱天(南京)精细化工有限公司
菱優工程塑料(上海)有限公司

株式についてのご案内

事業年度	4月1日から 翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
同総会権利行使株主確定日	3月31日
期末配当金支払株主確定日	3月31日
中間配当金支払株主確定日	9月30日
公告の方法	電子公告により行います。 公告掲載URL： http://www.mgc.co.jp/ir/public_notices/
1単元の株式数	1,000株
株主名簿管理人 特別口座の管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話(0120)232-711(フリーダイヤル)

当社では、最新のIR情報のほか、当社をご理解いただくためのさまざまな情報を、ホームページを通して発信しています。



ホームページ: <http://www.mgc.co.jp>

単元未満株式の買取制度・買増制度のご案内

当社は単元株制度を採用しており、単元未満(1,000株未満)の当社株式につきましては、株式市場で売買を行うことができません。そのため、単元未満株式につきましては、次の2つの制度をご用意しております。

- 1) 単元未満株式を当社に買取請求することにより売却する制度(単元未満株式の買取制度)
- 2) 単元株式数に不足する株式を当社から買い増すことにより、単元株式にする制度(単元未満株式の買増制度)

株券電子化により、株券の提出が不要となり、より簡便に本制度をご利用いただけるようになりましたので、ぜひご活用をご検討ください。

なお、本制度の内容ならびにお手続方法の詳細は、右記の問い合わせ先までご連絡ください。

(注) このご案内は、単元未満株式の買取・買増請求を強制するものではありません。

株式に関するお問い合わせ先

- 1) 証券会社等の口座に記録された株式に関するお問い合わせ先：
お取引の証券会社等にお問い合わせください。

(注) なお、支払期間経過後の配当金支払、郵送物の発送にご照会については、下記の特別口座の場合の連絡先をご利用ください。

- 2) 特別口座に記録された株式に関するお問い合わせ先：
三菱UFJ信託銀行株式会社(特別口座管理機関)にお問い合わせください。

連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
電話(0120)232-711(フリーダイヤル)

特別口座に関する手続用紙

音声自動応答電話によるご請求:

電話(0120)244-479(フリーダイヤル)

インターネットによるダウンロードURL:

<http://www.tr.mufig.jp/daikou/>